



◀ 卒業生らの目標や夢、願いなど一文字がつながり、はばたく連凧

## みんなが交通ルールを守り、安全に生活してほしい

### 児童交通指導委員が1年間の活動を報告

多久市交通安全協会は2月23日、多久幹部派出所で児童交通指導委員を務めた小学6年生との懇談会を開きました。委員は、各学校に2人ずつ任命され、安全指導のリーダーとして活躍してきた14人。学校で活動した交通安全の取り組みをそれぞれが報告しました。

東部小の石丸由也君と田久保要君は、多久自動車学校のコースで自転車の正しい乗り方や点検の大切さを学んだことや、水害時に危険だと思ふ箇所点検をしながら集団下校し、地区内の安全を確認したことなどを伝え、「一つひとつは小さな取り組みでしたが、みんなが事故やけがないような力になれたと思う」と話しました。

この日は、交通危険箇所点検もあり、小城警察署の脇山賢一交通課長が、筋原と南多久公民館前交差点で安全を指導。交通量によって違う車の動きを見ながら、一点式点滅信号の意味や事故事例などを説明しました。北部小の江副弘輝君と奥野幸樹君は、「以前よりも気をつけ、考えて行動するようになった。みんなが交通ルールを守り、安全に生活してほしい」と委員として学んだ1年を振り返りました。



▲交差点に入る車の動きを見ながら、歩行や自転車での安全指導を受ける児童

## それぞれの夢や目標 大空へ高く、未来へ

### 東部中で卒業生の前途を祝う連凧揚げ

東部中で卒業生の前途を祝う恒例の連凧揚げが3月2日、育友会父親部が中心となって行われました。

3年生58人と保護者、父親部、職員が協同で作成し、夢や希望を一文字に託した凧は約150枚。それをつなげた連凧は約200m以上の長さで、風を見ながら舞い上げました。

杉原誠一君は、誠実に生きるために「誠」、黒岩稜君は、いろんなことをしたいから「技」、本嶋一輝君は、自分の夢が叶うように「叶」を書き、「みんな離れ離れになるので、中学校最後のいい思い出になった。託した夢に向かって羽ばたきたい」と話し、3人仲良く未来を見つめていました。

卒業式でも飾られた2m弱の大きな凧には、白木直人校長の「論語で“仁”は広く大きな愛で人間愛。自分を愛し、人からも愛されて生きてほしい」の想い「仁」が託されていました。

## ハウスの中で桃の花満開!! 受粉作業が進む

3/6



桃生産者のビニールハウスでは、2月中旬からピンク色の花が咲き出し、受粉作業が続きました。この作業は、結実に欠かせないもので、五分咲きから満開の時期にミツバチと毛ばたきを使って行います。苗木を植えて4年目となる無加温ハウスで、今年本格的な収穫を迎える武富鹿一郎さん（桐野）は、桃栽培30年以上のベテラン。「温度と水管理に注意しながら、いい実が生るように一花一花思いを込めています」と話し、熱心に作業されていました。

## 御屋形(おやかた)広場 周辺にモミジ57本を植樹

2/14



多久市美しい緑の郷土づくり推進協議会と多久町区長会は2月14日、多久聖廟と西溪公園の入口になる御屋形広場付近に57本のモミジを植樹しました。財団法人さが緑の基金を活用したもので、地域のシンボリック景観の環境整備に町内の区長、東の原美化クラブ、西溪中の野球部員など約30人が参加。山口博三区長会長は「一緒に植樹した生徒たちも思い出の木となれば嬉しく、どちらも健やかに成長してほしい」と思いを込めました。